

# 読売歌壇

猫だつて木の枝にとまるといふことがあり夜はそのま  
ま鼻になる  
【評】なぞなぞのような歌で、意味不明とも  
いえるがふしぎとおもしろい。猫は夜、フク  
ロウになる。フクロウは昼、猫になる。人間  
もいつか死たい。  
むかしむかし父に挑んだ少年が今日孫とさす将  
棋を真剣に  
【評】歳月矢のごとくである。少年のころ将  
棋をさして父に挑んだ。いま孫に挑まれてい  
る。どちらも相手がなかなかつよい。思わず  
マジになる。負けてなるものか。  
石を割り石器を手にした人類が核ミサイルを作  
り出すまで  
【評】たった数十年でこうなった。地球の  
歴史に比べればあつという間である。ふたた  
び核兵器が使われないことを祈るのみ。  
ゆつたりと湯槽に浸かる心地してひばりにはる  
みになおみの唄聞くと  
所沢市 小室 佳久  
老いてひとりの兄よ今宵は何食べたテレビは故  
郷の菜の花うつす  
西条市 山本美知子  
江ノ電に鋭き眼もつ人見つつ長谷川權とあとか  
ら気づく  
逗子市 鈴木喜久代  
さん付けがちゃん付けになるクラス会戦後はみ  
んな貧しかったね  
奥州市 小野寺正美  
ディテールに凝ったブラウス着て君に褒められ  
にゆく印象派展  
仙台市 藤原はるか  
無事故なる今日一日に感謝して夕日の映える月  
山拝む  
山形市 柏屋 敏秋  
「あれよね」「さうだね」電話切るあれ  
って何か分からないまま  
調布市 川久保洋子

## 小池 光選

ほんとうの春はまだまだ水見の家ブルーシート  
をめぐりて入る  
富山市 荒田真智子  
【評】水見は富山県北西部の地。能登半島地  
震で被災した家なかもしれない。下向のし  
ぐさから苦難の生活がわかる。「ほんとうの  
春」の「ほんとう」が重く心に残る一首。  
黒田杏子氏一周忌記念『花巡る』は故人が中心  
に坐す曼荼羅図の如し  
東京都 青山 繁  
【評】俳人の黒田杏子氏の一周忌に追悼文集  
『花巡る』が刊行された。各地の桜を愛した  
氏にふさわしい題名。曼荼羅図の比喩に故人  
の包容力と華やかさが託されている。  
寝る前に電気を消してベッドまで歩く三歩に本  
能がある  
東京都 光澤 霏々  
【評】スマホも電灯もオフにして、闇に包ま  
れる。三歩といえども別世界に入るような気  
分。自身の「本能」を発見したのが新鮮。  
日本人多い街に来てチャリティーで「上を向い  
て歩こう」を歌う  
オランダ 宮沢 洋子  
お返しにホワイトデーに届く本「現代短歌」の  
五月号なり  
東京都 高橋菜穂子  
相撲好きの友の電話のレクチャーは春場所七日  
目さようの一番  
福山市 金尾 洵子  
脱税のニュースを聞いてスーパーで明日のパン  
買う四円のおつり  
東京都 稲山 博司  
机上には一輪挿しの野水仙窓の向こうはアブラ  
ナの花  
久留米市 一木 泰二  
立ち枯れて萎折れ垂るる芭蕉ありずつとバナナ  
と思ひてゐたり  
横浜市 森崎 貞夫  
吾子たちをやく包みしおくるみの色して木香  
薔薇はほころぶ  
宇土市 三浦 清美

## 栗木 京子選

治さない傷が見えない長袖であかねささない野  
つばさにいる  
狭山市 えんどうけいこ  
【評】もともと茜色に照り映えるところか  
ら日や光にかかると枕詞「あかねさす」を、  
否定形で用いるという斬新なアイデアが効い  
ている。傷は治さないまま、それを隠したま  
ま。やさぐれた気分の下ドメをさす枕詞だ。  
動かぬ理由は何歳までいるの土にかえれぬ舗道  
の落ち葉  
新宮市 小野小乃々  
【評】高齢になつても働くことを余儀なくさ  
れる昨今の日本の状況。人間も自然の一部の  
はずなのに。暗澹たる気持ちになる下の句だ。  
咲いたこと送信ボタン押すよりも切手を貼って  
知らせたい春  
船橋市 矢島 佳奈  
【評】いきなり動詞で始まる初句が印象的だ。  
効率よりも大事なことがある。メールや手紙  
と言わずに動作で表現した工夫もい。  
顔という丘に両手を這わせると星が見えなくな  
る場所がある  
豊中市 葉村 直  
つむぎは大きくなって泡となる食器を洗う暗  
いキッチン  
東京都 立川 亮  
百年の眠りを解いてやるように水へと放つ切り  
干し大根  
平塚市 小林真希子  
通勤で啓発本を読む人の座席を譲る動きがきれ  
い  
下関市 伊藤 雄大  
時刻表みたいに生きてきたけれど予約しないで  
旅立ちたい  
東京都 新美喜代男  
それぞれに違う任務を担いつつスマホが運ぶ朝  
の民族  
東京都 富見井高志  
三次元座標のような渋谷駅ランドセルの児はず  
いすい歩く  
静岡市 柴田 和彦

## 俵 万智選

旅にきて用無く巡るスパーに主婦業からの解  
放感満つ  
兵庫県 和泉 純子  
【評】旅先のスパーでは地元グルメが格安  
で手に入ることもあるか。日々の家事のた  
めではなく、自分の楽しみとしてだけ馴染み  
のないスパーを巡る。そんな喜びの時。  
白杖をはじめて握り歩き出す年を老いても私ら  
しくて  
奈良市 浦城 亮祐  
【評】視力低下を抱えておられるのでしよ  
うか。その状況でも自分の生活をしっかりと守  
っていきたいという思い。新しい挑戦として  
白杖での生活に挑む、自らを鼓舞する一首。  
道真もやつと一息つくだろう受験シーズン今年  
も終えて  
熊谷市 間中 昭  
【評】菅原道真を祀る各地の天神様にはこの  
春、神頼みの受験生が引きも切らずに参拝し  
たことだろう。学問の神様も大変なのだ。  
蛇口よりあふるる水に涙する被災地の主婦に我  
も涙す  
相模原市 渡辺世津子  
春さえも忘れてしまった母なのに花の絵はがき  
獄に送り来  
山形市 内牧 白岳  
はぐれたる鴨が群れへとみづからで辿りつくま  
で子と見守りつ  
千葉市 小金森まき  
孫たちの腹が減ったの連発はでかくなるぞの兆  
しに聞こゆ  
青梅市 梅田 啓子  
ポリーニのショパン響かせつたた寝をしている  
父の指先が舞う  
札幌市 住吉和歌子  
さようならいのまたむつみさようならレダに恋  
した少年の僕  
調布市 菊川 直樹  
京都への電車で揺られ縋くは古今和歌集ワイン  
傾け  
金沢市 干場 美幸

## 黒瀬 珂瀾選

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌壇(俳)〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はたねまき